

いくの de リノベ

クリエイティブな 明るい我が家

第7回目の今回は、舞台美術スタッフの木村さんのお住まい。3軒ほど連なる長屋の端、角地にあるご自宅は、町並みに溶け込んだ外観と打ってかわり、かなり個性的な室内。想像を裏切る開放感にまず圧倒されます。

入ってすぐの吹き抜けをはじめ、各所から惜しみなく光が差し込みます。さらに、庭付物件のメリットを最大限に活かしたサンルームは、光を取り込むこ

とはもちろん、室内に居ながら外のつながりを楽しむ“くれ縁”（外とはガラス戸で仕切られた縁側）として、いつでも庭を望むことができます。

芸術大学に通っていた経歴を持つ木村さん。演劇との出会いから現在の職業である舞台美術の世界へ進まれたといいます。「建築自体を学んだことはないんですが、舞台制作を通じて建築に触れる機会をもらいました。」とのこと。リノベーションにあたっては、大胆にも内装を全て取り払い躯体だけの状態にして、設計図を作



らず、建築的なセオリーに縛られずに「思うがままに作った」と語ってくれました。

その結果生まれたリノベーション後の室内は、壁を取り払うことで一続きの大空間としつつ、床材の張り方に変化をもたせることで、元の各部屋の独立性も残しておられます。味のある家屋、光さす吹き抜けなどモダンなアイデア、そして、日本家屋の伝統的な味わいがうまく混ざったお住まいから、芸術家としての感性の鋭さや妥協しないストイックさを感じる木村さんですが…

「貧乏性なのか、ごみだと思っても廃材を捨てられないんです。廃材を利用しようと、4匹いる猫のためにキャットウォークを作りました。でも1匹しか上がってくれないんですよ。」と穏やかに話す木村さん。「次は妻が作るこけしの作品を飾る棚をつくりたい」というお言葉と、くつろぐ家族が目に見えお住まいから、木村さんの家族を大切に想うお気持ちを強く感じました。



いくの de リノベの
取材の様子や詳しい情報を
ブログでご紹介しています。



素敵な“お隣さん”を紹介してください!

「いくの de リノベ」では、生野区らしいリノベーション暮らしを紹介します。(他薦のみ)

お隣さんの条件 生野区在住で古い家屋をリノベーションし、自分らしく暮らしている方

応募方法 「問合せ」へ下記事項を連絡ください。

- (電話・FAX・郵送で受付)
- ①あなたのお名前・ご連絡先
- ②紹介したい“お隣さん”のお名前・場所(可能であれば連絡先)



▲桃谷地区の北部にある木村さんのお宅。入り組んだ道が多く、「一見さん」にはあまり知られない場所。反面、行き交う袖が触れそうなこの距離が、住民同士のコミュニケーションを自然に生みだす人情味あふれる場所。

問合せ 区企画総務課 ☎6715-9683 FAX6717-1160 〒544-8501 生野区勝山南3-1-19

★空き家の相談はこちら⇒☎6715-9734

IKUNO×グローバル

(アークボーン)
ආයුබෝවන්!
こんにちは!

**HERATH PATHIRANNEHELAGE
RUWINI DILUKSHI HERATH** さん
(ヘラット パチラシネヘラゲ・ルウィニ デルクシヘラット)

スリランカ出身。1年前に来日し、日本語学校に通う。日本の大学に進学するため目下受験勉強中。



故郷はどんなところ?

海沿いの小さな漁村。田んぼがいっぱいあってお米もお魚もおいしいんです。みんなカレーが大好きで、朝昼ガッツリ夜軽めで3食カレーを食べます。わたしはイカのカレーが大好き。スリランカのカレーは辛いけど、ココナツミルクが入っていて少しマイルドで食べやすいんですよ。日本のカレーもおいしいけど、ちょっと甘く感じます。あとスリランカでは、カレーは手で食べます。丸い大き目のお皿の真ん中に、ご飯を入れて、3種類くらいのカレーを周りにかけて、ごはんをカレーを少しずつ混ぜて食べるんです。手で食べるとよく味が混ざっておいしいんですよ。

生野のまちはどうですか?

小学校の時の先生が「日本はきれいなところだよ」と教えてくれたことがきっかけで日本に興味を持って。その頃から日本に来たくてやっと来れました。スリランカは一年中25℃から30℃くらいの気温で、ずっと花が咲いてる暖かい所なんです。日本には四季があって、去年はじめての秋に、近所のお寺で初めて紅葉を見た時、感動しました。本当にきれいで。秋の紅葉、冬の雪、そんな風にスリランカとの違いを見つけては楽しんでます。

IKUNO×グローバルは生野区ブログでも発信しています。

生野区 チームいくみん通信



マルニ工業株式会社

パンク修理に慣れていない人の強い味方!
ゴム原料から製品まで一貫した生産システムを完備する
パンク修理材メーカーは日本唯一!

ピックアップ

生野

ものづくり百景



代表取締役
浅野 傑さん



プロ用だけでなく、自分でも簡単に自転車や自動車のパンク修理ができる製品を揃えるマルニ工業株式会社さん。自転車のタイヤのパンク修理には、パッチと接着剤タイプのほか、最近では、スプレー缶タイプのものが人気だ。これは、バルブに缶の先を差し込むだけのもの。ほんの10秒ほどで、揮発性の泡がタイヤの中の空気を満タンにし、同時にノリの成分が穴をふさぐ。

また、ジャッキアップ・タイヤ交換なしで簡単に応急パンク修理ができる自動車用のキットも人気が高い。キズ穴の程度にもよるが、安全な場所まで移動できたり、修理工場に駆け込むことができる。タイヤ交換に慣れていない人にとってつけの商品だ。

同社の製品は、世界60カ国でも販売中。「Made in Japan」の修理材は、海外でも信頼が厚い。

◆マルニ工業株式会社 舍利寺3-11-1 ☎6716-4171

生野ものづくり百景について、詳しくはHPをご覧ください。

